

# With you

ウィズ ユー

No. 11

日本UNHCR協会ニュースレター

2007年 第1号



最近タイに到着したミャンマー難民の女性。7人の子どもの母。

UNHCR/J.Redfern

## 各地の援助活動

アジア地域	2
アフリカ地域	3
その他の地域 (中東・アメリカ・ヨーロッパ)	4
ご寄附の指定先について/テーマから見る難民問題	5
第2回難民映画祭/UNHCR駐日事務所新代表/領収証の手続き変更	6
「毎月倶楽部」のお願い/ご寄附の方法	7
世界難民の日/学習訪問/日本各地のイベント	8

JAPAN FOR



UNHCR

日本UNHCR協会はUNHCR (国連難民高等弁務官事務所) の公式支援窓口です。

# 各地の援助活動

## アジア地域



◀セバタクロウ(アジアの伝統的球技)で遊ぶミャンマー難民の子どもたち UNHCR/J.Redfern  
▼登録証を持つアフガン難民。偽造を防ぐためモノグラフが入りラミネートされている。UNHCR/D.Khan



身近なアジアでも、多くの難民・避難民が支援を必要としています。アジア地域では約220万人が避難を強いられています(太平洋地域を含む)。

**スリランカ**では20年近く、政府とLTTE(タミル・イスラム解放の虎)の内戦が続きましたが、2001年に停戦をむかえました。しかし、2006年の9月以降、再び衝突し、20万人以上の人々があらたに国内で避難を強いられ、1万5000人が海を渡り、インドの海岸に避難しました。

**タイ**は、ミャンマーからの難民を20年以上にわたって受け入れています。国境沿いの山間部に9つの難民キャンプが点在し、約14万人のミャンマー難民が暮らしています。ミャンマーへの帰還が見込めない状況で、2005年からタイ政府は従来の方針を変更し、ミャンマー難民の第三国定住を認めるようになりました。アメリカやイギリス、オーストラリア、北欧諸国が受け入れを表明し、定住が始まっています。しかし、全てのミャンマー難民が受け入れられるわけではなく、また全員が第三国定住を希望しているわけではありません。引き続き、学校教育や職業訓練などさまざまな援助活動が必要とされています。

**ネパール**では政府がブータン難民の第三国定住を認めていません。しかし、ブータンへの帰還も現時点では難しくそうです。そのような状況のなか、明るいニュースがネパールから届きました。7つあるキャンプの1つで、昨年、太陽光発電街灯の試験プロジェクトが成功しました。特に

女性たちから夜でも安心できるようになったとの声が多く聞かれます。ユースエイチシー UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は今年の事業として、残る6つのキャンプにも太陽光発電の街灯を取り付ける計画です。

**パキスタン**では、UNHCRとパキスタン政府が2005年3月に合同で行った人口調査をもとに、約240万人(そのうち約70%が女性と子ども)のアフガン難民に「登録証」(3年間有効)を発行しました。アフガン難民が不法滞在者ではなく、「パキスタンに一時的に滞在しているアフガニスタン人」という証明となり、退去させられる心配がなくなりました。アフガン難民の避難生活が長期化するにしたがい、UNHCRでは援助物資を提供する支援から、学校教育や職業訓練、コミュニティーサービスなど、自立を促進する支援に重点を移行しています。

**アフガニスタン**へ帰還を希望する人々への支援も引き続き重要です。2006年には約13万3000人がパキスタンから帰還しました。2007年は約40万人が帰還すると推測されます。そのうち約25万人がUNHCRの支援を得て帰還し、UNHCRは約1万戸の住宅再建支援を行う予定です。

ご支援ありがとうございました。

**アジアの難民支援** ご寄附: 2452万6825円 件数: 1696件  
(2006年1月1日~12月31日)

- ・ミャンマー難民支援 ご寄附: 829万7838円 件数: 794件
- ・ブータン難民支援 ご寄附: 210万1900円 件数: 36件
- ・アフガン難民支援 ご寄附: 1308万4571円 件数: 751件
- ・その他アジアの難民支援 ご寄附: 104万2516円 件数: 115件

### 森絵都さん 難民キャンプを訪問



UNHCR職員を主人公にした短編小説「風に舞いあがるビニールシート」で第135回直木賞を受賞された森絵都さんが、タイのミャンマー難民キャンプとネパールのブータン難民キャンプを訪問しました(2月20日

~28日)。この訪問は、株式会社ユニクロが約12万着の衣類を難民キャンプに寄贈してくださり、贈呈ミッションに森さんも同行し実現したものです。そのときの様子が文藝春秋別冊5月号(4月7日発売)で紹介されています。



左から、守屋由紀(UNHCR)、上岡伸輔(写真家)、森絵都、新田幸弘(ユニクロ)、根本かおる(UNHCR)、小柴英子(ユニクロ)(敬称略)。写真提供: 森絵都

# アフリカ地域



◀襲撃を受けたチャドの国内避難民。  
UNHCR/H.Caux

▼新たにケニア・ダダブキャンプに到着し、UNHCRの支援物資を受け取るソマリア難民。  
UNHCR/J.Adongo



アフリカ大陸は、54カ国に8億人以上の人口を抱える大きな地域です。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の全体予算の1/3以上がアフリカの難民・避難民支援に充当されています。緊急支援を必要としている地域、避難生活が長期化している地域、そして平和が回復した故郷へ帰還する地域など、各状況に応じた援助活動が必要とされています。

**コンゴ民主共和国**では、昨年、40年ぶりに民主的な大統領選挙が行われ、日本も選挙監視団を派遣しました。一部では不安定な地域も残りますが、2007年には約35万人といわれるコンゴ難民の少なくとも約10万人が周辺国から帰還すると期待されています。ブルンジやリベリア、アンゴラ、スーダンの南部などでも、自主帰還のための条件が整いつつあります。

**ソマリア**では暫定政府と反政府勢力の衝突により再び政情不安となり、干ばつと洪水も重なり、昨年末までに3万人以上があらたにケニアのダダブ・キャンプなどに避難しました。

**スーダンのダルフール地方**で続く人道危機は、ニュースレターでも繰り返しご報告しているように、アフリカのなかで今、最も目が離せません。2006年5月のダルフール和平協定や8月の国連安保理決議1706号など、国際社会の努力にもかかわらず、まだ治安が回復しません。2006年はダルフール内だけではなく、国境を越えてチャド東部でも襲撃が続き、チャドから逆にダルフールへ避難した人も増えています。昨年11月には、チャド東部の町アベシェにあるUNHCRの備蓄倉庫が襲撃され、援助物資の8割(1億2000万円相当)が略奪される事件もありました。

チャドに避難していたスーダン難民約1万5000人がダルフールに戻りましたが、ダルフールの状況が改善されたからではなく、チャド側の治安までもが悪化したからです。UNHCRはチャドからダルフールに避難してきた約2万人のチャド難民のために、あらたに2カ所のキャンプを新設しました。

ダルフールは北部、南部、西部と3つの地域に分けられ、

UNHCRは主にダルフール西部に6カ所の事務所を設け、約100人の職員でダルフールの国内避難民を保護・支援しています。

2007年の当面の目標として、避難民が集まる地域で50カ所の給水設備修復、20カ所の学校再建、さらにテントなどの仮設住居用の資材5万戸分、蚊帳4万張、丈夫なビニールシート4万枚、毛布8万枚、敷布8万枚、調理器具セット4万個、生理用品40万個を支給する計画を進めています。栄養失調を7割減らすことも目標の1つです。多くの難民・避難民の移動によりダメージを受けた環境を調査し、本年度中に植林活動も開始する予定です。

UNHCRは性的虐待を受けた女性や寡婦となった女性などを支援するため、34カ所に女性センターを設置し、生活改善に努めています。すでに8万人以上の難民女性がこれらのセンターを訪れました。識字教育や健康相談、ミシンを使った裁縫や絨毯作りなどの職業訓練を提供しています。

## 現地で活躍する日本人職員

ダルフールにあるUNHCRエル・ジェネイナ事務所で、フィールド/プログラムオフィサーとして活躍する安藤秀行さんに、



今何が一番必要かお聞きしました。テントや毛布という答えを想定していたのですが、安藤さんは「治安の回復です」と答えました。危ない地域を避けて援助活動し、その地域がまた危なくなり、「イタチごっこのよう」だそうです。ダルフールの状況は改善の見込みがまだまだありません。しかし、安藤さんは「今が我慢のしどころです。現状では国内避難民を支えるのがやっと。ご支援が減ると新たな難民に対応するどころではなくります」と引き続きの支援を訴えています。

ご支援ありがとうございました。

**アフリカの難民支援** (2006年1月1日～12月31日)

	ご寄附: 4725万2164円	件数: 3184件
・スーダン難民(ダルフール)	ご寄附: 2591万1267円	件数: 2154件
・スーダン難民(南部の帰還)	ご寄附: 220万8346円	件数: 12件
・アフリカ難民に教育を	ご寄附: 1343万9964円	件数: 184件
・アフリカ難民に水を	ご寄附: 477万4787円	件数: 720件
・その他のアフリカ支援	ご寄附: 91万7800円	件数: 114件

## 中東地域

イラク人の8人に1人が避難生活を送っています。

**イラク**では、2003年7月にイラク戦争が終結したものの、治安は悪化の一途をたどっています。宗派や民族間による対立は激しさを増し、テロに加え、強盗や暴力が横行しています。このため、最大200万人が近隣諸国のシリアやヨルダン、エジプト、レバノンなどへ避難しており、毎日数千人のペースで増えているとみられています。イラク国内の別の地域へ避難している人の数は、2007年末には230万人になると推定されています。「国外に逃げていた人もお金が尽きてしまって、子どもの労働や売春が増えていくんです。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)では、現地の役人やNGOなどと協力して、彼らが少しでも楽に生活ができるよう支援を続けています」(UNHCRジュネーブ本部イラク支援上級デスク担当の織田靖子さん)。



ヨルダンに避難しているイラク難民

UNHCR/P.Sands

UNHCRは、イラクの難民や国内避難民を支援するために、2007年1年間で6000万米ドル(約70億円)が必要であると国際社会に支援を要請しています。

## アメリカ地域

**コロンビア**では、300万人が国内避難民となり、50万人が周辺国で難民生活を送っています。現在その総数は、他のどの難民・避難民グループよりも多くなっています。

UNHCR親善大使であるアンジェリーナ・ジョリーは、



UNHCR職員と話すパナマに避難したコロンビア難民

UNHCR/B.Heger

2006年12月25日、夫である俳優のブラッド・ピットと一緒にコスタリカの首都サンホセを訪問し、コロンビア難民の人々と共にクリスマスをお祝しました。コスタリカにはコロ

ンビア難民約1万人が暮らしています。

パン屋を営む29歳のジェイムスさんは、2人のためにケーキを焼いて待っていました。「僕はコロンビアでもパン職人でした。サンホセに来たばかりの頃は、道端でパンを売っていました」。彼は、UNHCRが提供するマイクロ・クレジット(小額貸し付け)制度を使って、自分の店を持つことができたのです。

「こんな悲劇が何年も続いているのに、世界が知らんぷりしているなんてひどすぎます。私からコロンビア難民・避難民の皆さんへのクリスマスメッセージは、世界は彼らを忘れてはいないということです」とジョリーは語りました。(UNHCR News Stories 2006/12/26より抜粋翻訳)

UNHCRは、コロンビア難民・避難民への支援に必要な資金として、2007年度約2387万米ドル(約28億円)を必要としています。

## ヨーロッパ地域

サッカー日本代表監督を務めるイビチャ・オシム(Ivica Osim)氏は、旧ユーゴスラビア、ボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボ出身です。1991年の夏にスロベニアとクロアチアがユーゴスラビア連邦から離脱し、続いて1992年にボスニア・ヘルツェゴビナが連邦の離脱を宣言すると、ユーゴスラビア軍がサラエボに侵攻しました。

バルカン紛争を経てユーゴスラビアが6つの国に分裂した結果、この地域には今もなおUNHCRの支援を必要とする難民、国内避難民、そして無国籍状態になってしまった人々があります。

**スロベニア**では、15年間も無国籍のまま放置されている約4000人の問題を解決するために、UNHCRは政府への働きかけを続けています。

セルビア州に属するコソボに生まれたアリジャ・ベリシャさんは、10代の頃からスロベニアに住んでいましたが、1992年にスロベニアの住民登録を抹消されました。



永住権を求めて係争中のアリジャ・ベリシャさん

UNHCR/B.Szandelsky

翌年、短期間のドイツ訪問から戻ったとたん拘束された結果、スロベニア人であることを示す身分証明書を剥奪され、それまで行ったこともないアルバニアに送られてしまったのです。アルバニアは彼をスロベニアに送還したものの、また拘束されたベリシャさんは、ドイツに逃れて一時的滞在許可を得てそこで家庭を築きました。その期間が切れドイツを離れざるをえなかった2005年9月以降は、妻と子ども5人と共にスロベニアの避難センターで暮らし、スロベニアの永住権回復を求めて係争中です。(UNHCR News Stories 2007/1/16、2/27より抜粋翻訳)

## ご寄附の指定先について

# 「最優先」をご指定ください

日本UNHCR協会では、「最優先」というご寄附の指定先を設けています。地域やテーマを特定せず、UNHCR (国連難民高等弁務官事務所)のジュネーブ本部の判断で、適宜必要な地域やプログラムに充当させていただく指定先です。

たとえば、2006年に起きたレバノン中東危機のような緊急事態には、各種の報道のおかげで、比較的迅速にご寄附が寄せられました。しかし、UNHCRの難民援助活動は、緊急事態を脱しても、解決の目処がたつまで続きます。10年、20年以上と続く場合もあります。長期化した難民問題にはなかなか関心が高まらないため、援助活動に必要な資金が不足し、援助プログラム



タイのキャンプで職業訓練を受けるミャンマー難民の女性 ©日本UNHCR協会

を縮小せざるを得ないことが多々あります。そのため、UNHCRではすべての分野や地域の援助プログラムに適宜充当できる



UNHCRが掘削した難民キャンプの井戸

UNHCR/B.Heger

「最優先」のご寄附をたいへん重宝しています。

地域やテーマを特定されない場合は、どうぞ「最優先」をご指定ください。また、何もご指定のない場合は自動的に「最優先」とさせていただきます。

ご支援ありがとうございました。

最優先のご寄附

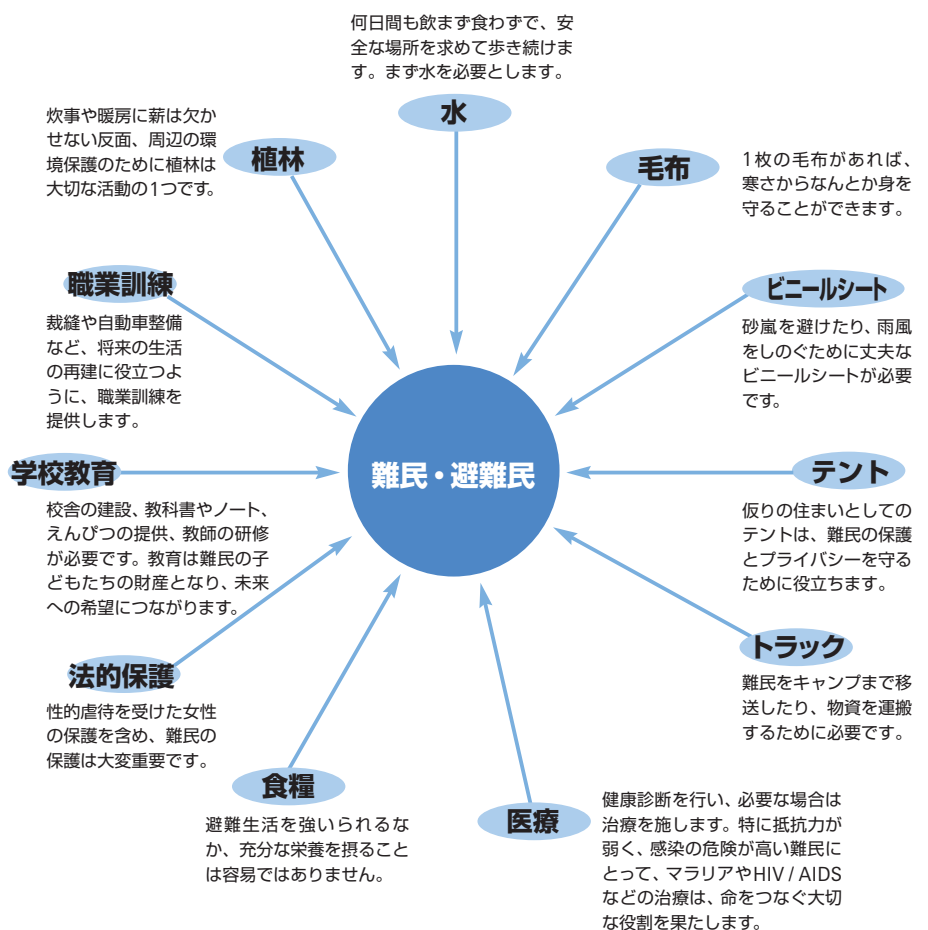
ご寄附：1億7842万2748円 件数：1万8221件  
(2006年1月1日～12月31日)

※2006年度のご寄附総計は3億5234万5643円、2万8241件です。詳しくは追って「活動報告2006」でご報告します。

## さまざまなテーマから見る難民問題

故郷を追われた「難民」「国内避難民」と呼ばれる人々も、日常生活で起きるあらゆる問題をかかえながら、日々の生活を送っています。ひとまとめに難民といっても、そのなかには、子ども、青年、老人、女性、孤児、エイズ患者などさまざまな人々が含まれています。難民キャンプも1つの生活の場なので、人間の生活に必要なあらゆる分野の支援が必要です。UNHCR本部では、難民保護の重点テーマとして、女性、子ども、老人、障害者、エイズ、マラリア、栄養、環境、教育をあげています。現場では、各地域のニーズに合わせた援助活動が選択されています。

たとえば、昨年ナンセン難民賞を受賞された株式会社富士メガネの「眼鏡寄贈プロジェクト」のように、各企業の得意分野をご提供くださることが、そのまま難民の日々の生活を支えることに役立つかもしれません。音楽、絵、スポーツ、料理など、どんなことでも自分ができることから、難民支援との接点を見つけてみませんか？



## 第2回難民映画祭の7月開催が決定！



「ルワンダの涙」

昨年UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)として初めての試みであった難民映画祭は、一般の方々やメディアからたいへん大きな反響をいただきました。これを受け、今年7月に約1週間の予定で、第2回難民映画祭を開催することになりました(東京都内)。今年は、規模、内容ともに充実させ、国内外から難民を題材にした映画約20本を一堂に上映します。

【上映予定の作品】ウガンダの国内避難民を題材にしたドキュメンタリー「Invisible Children」。1994年に起きたルワンダ大虐殺を題材にした映画「ルワンダの涙」。その他、ケニアのカクマ難民キャンプで難民自身の手によって制作された映画や、ナチス・ドイツによる迫害からユダヤ人を救った杉原千畝元リトアニア大使館員を扱った作品など。会場や上映作品などの詳細は、UNHCR駐日事務所のHPまで。  
<http://www.unhcr.or.jp/> (4月中旬以降に掲載予定)

また難民映画祭に先かけ、6月15日～7月13日の約1ヵ月間、東京・青山の国連大学ビル2階「UNギャラリー」にて、難民映画祭で上映予定の映画のポスターなどを展示します。

## UNHCR駐日事務所に新代表就任



国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所  
駐日代表 滝澤 三郎 (たきざわ・さぶろう)

日本人初のUNHCR駐日代表となり、29年ぶりに日本に帰ってきた。改めて日本は安全で住みやすく、便利な国だと感じる。そのような国に帰ってきて「お帰りなさい」と言ってもらえるのはありがたい。私たちには「帰りたい祖国」、「引きとってくれる祖国」がある。

私たちは、外国に住んでも当然のこととして「日本という国」が守ってくれると考えるが、これが世界中で通用するわけではない。世界中で2100万人もの人々が、政府による迫害を逃れて他国に難民として庇護を求めたり、国内紛争を避けて国内避難民として暮らす。そ

の多くが、安全もない、生活基盤もない、仕事もないという状態で難民・避難民キャンプで暮らす。2100万人は東京都と大阪府の人口の合計とほぼ同じだ。想像してみよう——東京都と大阪府が難民キャンプになったとしたら？

日本は平和な国だが、国内だけが幸福であればいいのではない。国外の紛争・人道危機にも目をつむれない。日本には人の痛みの分かる、善意を持つ人が沢山いる。難民・避難民の生活を知った多くの方々が、何が出来るかを模索するなかで、私たちの活動を通して彼らの支援に参加してくださっているのはありがたい。日本UNHCR協会が呼び掛ける国連難民募金にご協力くださっている多くの支援者の皆様に、この場を借りて心から感謝を申し上げる。

約30年前、インドシナ難民が出たころ、私は法務省入国管理局に勤務していた。当時の日本はもっと閉ざされた国ではあったが、1万1000人のインドシナ難民の日本入国・定住を認める歴史的な出来事があった。今や彼らの大多数が

日本に定着して、「普通の生活」をしている。世界的にもアジアでも「移民問題」が大きくなり、日本もこの国家的問題を避けて通ることはできない。いかに日本人と難民を含む多種多様な外国人が「共生」できるか。ここでUNHCRの55年にわたる世界的な難民・移民問題についての経験が役立つはずだ。

今年は日本が難民条約に加盟して25周年目であり、UNHCRが日本に初代駐日代表を任命してから25周年にもあたる。これを契機に、長すぎて分かりにくいといわれる「国連難民高等弁務官事務所」の代わりに、「国連難民機関」を通称名として積極的に使っていきたいと考える。英語では“The UN Refugee Agency”という通称が既に定着しているのも理由の1つだ。ぜひ読者の皆様にも、「国連難民機関」を遠慮なく使っていただければありがたい。

補足: UNHCRは、United Nations High Commissioner for Refugees の略称で、「国連難民高等弁務官」という官職名にあたる。組織名は「国連難民高等弁務官事務所」(The office of the United Nations High Commissioner for Refugees)となる。

### 重要なお知らせ

#### 領収証および受領確認の手続きが変わります

日本UNHCR協会は認定NPO法人ですので、皆様のご寄附は税控除(優遇措置)の対象となります。これまで個人の方には原則として、1年分(1月～12月)の領収証を、確定申告に間に合うように、翌年2月上旬までにお送りしていました。しかし、2007年1月は還付申告のために領収証を早く希望される方が多くおられました。そのため、**今後はご寄附の都度、領収証をお送りすることにさせていただきます。**年1回をご希望の方はご寄附の際に振込用紙の通信欄にご記入いただくか、あるいは事務局までご連絡ください。

- 毎月俱樂部など、毎月の自動引き落としをご利用の方には原則として、従来通り年1回の発行とさせていただきます。
- 今年1月のご寄附より、受領確認としてハガキをお送りしていましたが、今後は領収証をお送りすることで受領の確認とさせていただきます。
- 年1回の領収証を希望される方には、引き続き受領確認のハガキをお送りします。
- 今年に入ってすでにご寄附をくださった分に関しましては、4月中に領収証をお送りさせていただきます。

このたびの変更につきましてご了承いただきますようお願い申し上げます。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。電話: **03-3499-2450**

## 難民の先生：キャンプから故郷へ

ケニアのカクマ・キャンプには、ソマリアやスーダン、エチオピア、ブルンジ、コンゴ民主共和国からの難民約7万人が暮らしています。スーダンの南北内戦で父親を失ったグレース・アニスさん(24歳)は、子どもの頃から学校の先生になるのが夢でした。アニスさんはUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)がカクマ・キャンプで支援している職業訓練の1つである教師養成コースを最近終了し、その夢を実現しようとしています。「私は先生になるのが夢でした。故郷の人々に変化をもたらすことができるからです」と話すアニスさんが帰還する予定のスーダン南部の識字率は、わずか15%といわれています。「私が教えた女子生徒が、将来、スーダンのリーダーになることが私の次の夢なのです」とアニスさんは微笑みました。



教師養成コース終了式でのアニスさん

UNHCR/D.Mwagiru

資金不足になると、このようなプログラムから打ち切らざるを得ません。長期的かつ安定した援助プログラムのためには、毎月継続的にご寄附いただける「毎月倶楽部」ほど心強いものはありません。毎月1000円から、銀行か郵便局の口座から自動引き落としによってご寄附いただけます。ご都合によって、いつでも中止することも可能です。毎月倶楽部によるご寄附もご検討いただければ幸いです。ご希望の方にはご案内をお送りしますので添付の振込用紙に「✓」(チェックマーク)をお付けください。あるいはお電話ください。電話 03-3499-2450

## 安定した活動のために

UNHCRの援助活動は、緊急事態が発生したときに救援物資を支給するだけでなく、学校教育や職業訓練など、長期的なプログラムがたくさんあります。UNHCRが

## ご寄附の方法

日本UNHCR協会では、以下の方法で常時ご寄附をお受けしています。

当協会は認定NPO法人ですので、皆様のご寄附は寄附金控除(優遇措置)の対象となります。

### 郵便局



**郵便局の窓口から** 添付されている振込用紙をご利用ください。

口座番号：00140-6-569575

加入者名：UNHCR協会

振込手数料は日本UNHCR協会が負担する「加入者負担」です。

**振替用紙をご希望の場合** インターネットからお申込みいただけます。または、当協会にお電話ください。

### 銀行



**インターネットからのお申込みが便利です**

お申込み後すぐに、今回のご寄附専用の振込口座(三井住友銀行)が表示されます。

①お名前②ご住所③電話番号のご登録手続きもオンラインで同時に完了しますので、後日当協会にご連絡いただく必要がございません。

**インターネットをご利用にならない場合**

三菱東京UFJ銀行 青山支店 普通口座：5251034

三井住友銀行 渋谷駅前支店 普通口座：3478195

口座名(各銀行共通)：UNHCRキョウカイ

お振込は名前の一部しか表示されません。

日本UNHCR協会の登録IDをお持ちの方へ 依頼人欄に①ID番号②お名前をご入力ください。

初めてご寄附をいただく方へ 領収証やニュースレターを発送いたしますので、お手数ですが、別途①お名前

②ご住所③電話番号をご連絡ください。



**インターネットから今すぐ募金！**

オンラインでご寄附いただけます。

### クレジットカード



### イーバンク銀行



### Edy



### コンビニ



専用の振込用紙を郵送します。



American Express (アメリカンエキスプレス)



DC (ディナーズカード)



Diners Club International (ダイナーズクラブ)



NICOS (ニコスカード)



JCB (ジェイシービー)



Master Card \*1 (マスターカード)



VISA (ビザ) \*2



UFJ Card (UFJカード)

\*1オムニカード協会メンバー発行に限り \*2 VJAメンバー発行に限り

インターネットからのご寄附・お申込み

<http://www.japanforunhcr.org/> の左上「ご寄附はこちら」にアクセスしてください。



## 6月20日は「世界難民の日」

2000年12月に国連総会で、毎年6月20日を「世界難民の日」(World Refugee Day)とすることが決議されて以来、この時期には世界各地で難民に関わるさまざまな催しが開催されています。

日本UNHCR協会では、毎年4月中旬から7月を「世界難民の日」キャンペーン期間として、登録イベントを募集しています。

この機会に、自分たちで何かを企画してみませんか？

こんなアイデアはいかがでしょうか？

- 日本UNHCR協会が提供する難民写真パネルやポスターを使って、学校などに掲示する。感想を書く場所も用意して、見た人が何を感じたかをお互いにわかるように工夫する。
- ピースバックを通じて難民への支援を続けてくださっているガールスカウトやボーイスカウトを誘って勉強会を開き、難民問題について学んだことを地域で発表する。
- ソロプチミストやロータリークラブなど同じ地域にある大人の団体にも声をかけ、子どもたちの発表と一緒に耳を傾ける。一緒にできることを見つけてやってみる。

どんな小さな企画でも歓迎です。ご連絡いただければ協会ホームページでご紹介させていただきます。

ご連絡先 → [wrd@japanforunhcr.org](mailto:wrd@japanforunhcr.org)

## 学習訪問のご案内

日本UNHCR協会では、修学旅行での班別学習、総合学習での自由研究、難民問題を通して、人道支援や平和について考え国際理解教育の一助としたい、などのご要望にお応えして、小・中・高校生の皆さんの学習訪問をお受けしています。

### 目的

難民問題やUNHCRの活動に触れ、自分の「感じたこと&知ったこと」を友達に伝えたり、「自分達にできることはなにか？」を考えつつ行動・発信するきっかけを提供すること。(例：文化祭での発表、募金活動)

### 受け入れにあたり

- 人数は原則として5人以上18人以下でお受けします。(平日10:00~16:00、土・日・祝日休み)
- 当協会にて「助っ人講師養成講座」を受講したボランティア講師が対応します。
- 基本的な内容は、ビデオ鑑賞や質疑応答で構成され、約1時間半となっています。
- 協会のホームページに掲載している資料等を用いた事前学習をお願いしています。
- 事前学習後にご質問があれば、訪問の2週間前までに下記アドレスにメールでお送りください。

### お申し込み方法

1)訪問希望日時 2)学校名 3)学年・人数 4)ご担当者・連絡先を明記の上、[school@japanforunhcr.org](mailto:school@japanforunhcr.org)宛てにメールにてご連絡ください。

当協会の都合によってはお受けできない場合もありますが、一週間以内にお返事をさしあげます。お受けできる場合は、申し込み用紙をお届けしますので、ご記入の上早急にご返送ください。この時点で正式なお申込みとさせていただきます。

## 日本各地のイベントと一緒に参加してみませんか？

関西では助っ人団体「CLUB GEORDIE」にご協力いただいています。

2007年2月3日(土)~4日(日)大阪国際交流センターにて、恒例の「ワン・ワールド・フェスティバル」が開催されました。一昨年以来、日本UNHCR協会スタッフ1名が出張し、助っ人会員に団体登録している関西学院大学国際交流団体「CLUB GEORDIE」がブース運営を応援してくださっています。

今年は、1時間交代で1~2名ずつ、総勢約10名の方が入れ替わり立ち代り、UNHCR駐日事務所・日本UNHCR協会共同ブースを手伝ってくれました。1年生中心でしたが、それぞれに勉強してブース運営に臨んでくれてとても助かりました。一般の人に声をかけて資料を渡したり、アンケート回答を求めたり、同じくらいの年齢の来場者

には積極的に(自分達の活動紹介もしつつ)話かけていました。

特に初日、UNHCRブースでも一時は人手が足りなくなるほどたくさんの方々が質問に訪れました。UNHCRは東京にしか拠点がないため「毎年この機会を心待ちにしているんです」と話してくださる方も複数いました。

CLUB GEORDIEとのパートナーシップがあつてこそ、大阪でのイベント参加が可能となっています。日本UNHCR協会では、各地域に根ざした同様のイベントに、地域の方々のご協力を得ながらもっと参加したいと思っています。全国の学生グループなどからのご提案をお待ちしています。



CLUB GEORDIEの皆さんが、UNHCRベストを着て帽子をかぶり、広い会場でのUNHCRブース宣伝に一役買ってくれました。 ©日本UNHCR協会

### 【2007年出展予定イベント】

- 連合第78回メーデー中央大会  
4月28日(土) 於：東京・代々木公園
- グローバルフェスタJAPAN  
10月の第1週末の土日(予定)  
於：東京・日比谷公園
- 横浜国際フェスタ2007  
10月27日(土)~28日(日)(予定)